

潜入!! 工事現場

途ちゅアフター

第6回 >>> 国登録有形文化財 染谷家住宅



トチュー調査員

空気が爽やかになったこの季節に
少し変わった工事現場に行ってきました。
文化財を扱う工事ってどんな感じなんだろう



柏駅から車で20分、手賀沼南岸のほとりから少し入った鷺野谷地区に、国登録有形文化財の「染谷家住宅」があります。

そもそも文化財とは、長い歴史の中で守り伝えられてきた文化的な財産のことで、仏像や遺跡など形あるものの他に、地域の伝統行事なども含まれる

そうです。市内にある文化財の中で国が指定・登録した建造物は、花野井の旧吉田家住宅、増尾の伊藤家住宅、そして染谷家住宅の3つになります。

8棟から構成される染谷家住宅の歴史は古く、江戸時代後期までさかのぼるというからビックリ！ 染谷氏はずっとこの地域で力を持っていた地侍でしたが、その後名主として村役人を務めていたといいます。弘化4(1847)年に建てられた主屋に加え、土蔵や風呂場などの付属の建物も含めて、現在保存修理工事を行っています。



銅版画 ※明治27年 東京精行社刊行(所蔵:染谷文彦氏)
現存する屋敷構えがほぼ一致する



時代劇に出てきそう〜



文化財の保存修理では同種・同材・同工法が基本です。家相図や古写真などの史料を参考に、実際の建物から建築当初の様やその後の変化を読み解いて、修理方針を考えるのだと教えてくれました。素材や部位にもよりますが、十数年ごとの部分修理を繰り返しながら、100~200年ごとの大規模修理が行われるそうです。建物そのものの部材を最大限残し、建築当初の情報を次の世代につなげていく努力が必要になってくるんですね。

主屋の工事では、いったん家屋全体をジャッキで持ち上げ、土台や柱の傷んでしまった箇所だけを部分的に修復していました。これぞ職人技。



工事は令和6年3月で終了し、その後は多くのかたに知ってもらえるように活用をしていきます。主屋の土間で奏でる音楽コンサートや文化財巡りツアーなどさまざまなメニューを検討中だそうです。ご協力いただいた文化課の皆さんありがとうございました。

トチュー調査員の もっと知りたい!

Q1 染谷家住宅の中で一番古い建物は？

A 天保5(1834)年に着手し翌年竣工した「長屋門」です。これまで建築年は不詳でしたが、取り付けられていた銅板の下に、墨書で直接門に記されているのが見つかりました



Q2 市内の文化財ってどのくらいあるの？

A 国・県・市から指定・登録された42件の他に、未指定を含めると3万件以上もあります。これらを保存・活用していくために、市では「柏市文化財保存活用地域計画」を今年7月に策定しました



市ホームページ

【問い合わせ】 広報広聴課 ☎7167-1175